

# 暖地型牧草の特性に関する研究

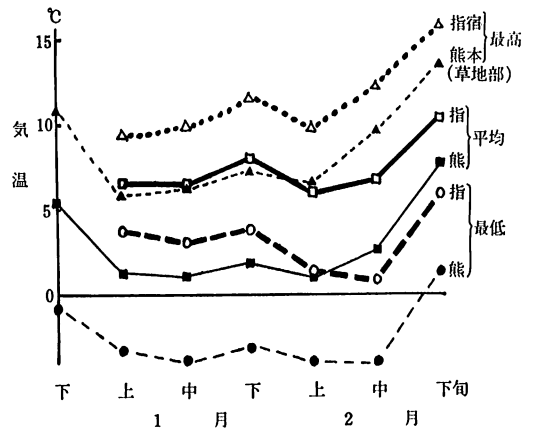
## 第8報 南九州（指宿）における越冬性について

大山一夫・佐藤博保  
(九州農業試験場)

前報において、冬期間比較的寒い九州農試草地部における越冬性の草種間差異を明かにしたが、冬期間の気象条件により、種・品種の越冬性に差異があるのではないかと考えられるので、九州本土で最も温暖な地区である薩摩半島における越冬性について試験し、九州農試草地部と比較した。

### 1. 試験材料および方法

供試牧草（第1表参照）を1976年6月に九州農試指宿試験地のほ場に個体植し、10月下旬に高さ10cmで最終刈を行ない、自然条件下で越冬させ、翌春に掘取り調査した。比較のため九州農試草地部に同一草種を栽培するとともに、鹿児島県山川町の農家は場で数種の牧草を栽培し、越冬性を調査した。



第1図 気 温

種(品種)	項 目	指 宿			熊 本(草地部)				
		越冬性	率	自然	ビニール被覆	温室	自然	ビニール被覆	温室
ローズ	F. Kat.	◎	80%	×	○	●			
	Samf.	×	0	×	×	●			
ウーリーフィンガー		●	100	◎	●	●			
カラード	Kav. U.	◎	100	×	◎	●			
ギニア	越冬系	●	100	◎	◎	●			
カブラブラ		◎	100	×	○	●			
ギニア	Gatton	◎	80	×	○	●			
ベージュ	ジイ	●	100	◎	○	●			
キクユ	Whittet	●	100	×	◎	●			
スプレンドイダ		●	100	×	○	●			
サイラトロ		×	0	×	×	●			

● 強 ◎ やや強 ○ やや弱 × 弱

供試年の気温は第1図に示した。冬期間の最低気温は指宿試験地 2月19日-3.0°C、草地部 2月18日-10.1°Cで、比較的寒い年であった。

### 2. 試験結果および考察

指宿試験地における越冬性は第1表にみられるとおりウーリーフィンガーグラスなどが確実に越冬し、ローズグラスの Fords Katambora (2倍体, 日長反応は中性植物) なども越冬したが、Samford (4倍体, 短日植物) などは越冬しなかった。

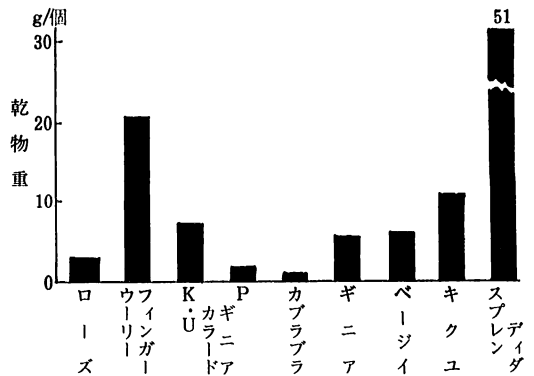
次に指宿試験地と草地部における越冬性を比較すると草地部でビニール被覆を行った場合が、指宿試験地の自然条件に近い傾向が認められた。山川町の農家では、指

宿試験地と同様の傾向を示した。

これらの結果から、九州本土の大部分の地域では冬期間低温で、越冬出来る暖地型牧草は比較的少ないが、薩摩半島などのように温暖な地区では、かなりの草種が越冬可能と考えられる。

なお、第2図のとおり、早春の生育に顕著な草種間差異が認められ、スプレンドイダ、ウーリーフィンガーグラスなどが良好であった。

終りに、本試験に御協力いただいた指宿試験地の方々に対し、深い感謝の意を表します。



第2図 越冬後の生育(乾物重) 4月27日調査